

「もはや二人ではなく一体 (one) である」マタイ19:6

## Information

- 今年もまた結婚感謝ミサがあります  
☆ 5月14日(日) 15:00~  
場 所: 聖イグナチオ教会主聖堂
- 幼児洗礼もあります  
☆ 5月21日(日) 10:30~  
場 所: 聖イグナチオ教会マリア聖堂  
御意見・御感想は…  
e-mail:one@igunatius.gr.jp

## 【夫婦ふたり】

### ～ 夫 の 転 職 ～

夫: 35歳。大学で保健学を専攻。在学中、医師をめざして医学部を再受験するが失敗。大学卒業後、いったんは外資系コンピュータ会社に就職し、SEとして医療システムを担当。6年目に退社。再度医師をめざして受験するがまた失敗。結婚後、保健士・看護師の資格取得のために大学三年に編入。現在は大学院に通うかわら、看護関係の仕事に従事。



### ● 出会い・・・

主人とは新入社員研修で知り合いました。彼は入社2年目ぐらいからSEとしての仕事に疑問を感じて、「やっぱり医者になりたい」と話していました。ちょうどその頃、私自身も仕事や将来について悩んでいたこともあり、彼の気持ちがよく理解できたし、自分のやりたいことが明確にわかっている彼をうらやましくも思いました。「夢があるなら実現に向けてがんばってみたら?」と一友人として彼を心から応援していました。そして相談にのっているうちに自然に交際が始まりました…。

### ● それぞれの「夢」・・・

彼の退職が具体的になった頃、私の中にそれまで感じたことのないような不安が押し寄せてきました。「私はこれからどうなるのだろう。」彼の進路変更も理解した上でのお付き合いだったにもかかわらず、そこには明らかに「結婚」を意識している28歳の自分がいました。「両親や友人たちみんなに祝福されて結婚したい、もちろん会社は寿退職、嫌な仕事からも解放されて、はれて専業主婦になり、子供にも恵まれて…」と、私にとっての幸せとは、安定した幸せな結婚生活だったのです。そしてそれが私の唯一の夢だったのです。

彼はこれから医師をめざす人、結婚を考える余裕もなければ、いつ実現できるものなのか、何も先がみえない状態です。もし結婚したとしても、経済的に私が家計を支えていかなければならない、私にとっては夢も希望もない仕事にも縛られることになるし、理想としていた安定した結婚生活とのあまりの違いに暗い将来しか見えませんでした。

その一方で、もしこれが逆の立場で、私にどうしてもやりたいことがあるとしたら相手には快く応援してほしいし、心の支えになってほしい。たとえ反対されても貫こうとするだろう。彼の夢も尊重したい。私は完全にジレンマに陥っていました。私の両親も交際には反対でした。「彼にとっても足手まといになるだけだ。彼もここで一人になって思いっきり夢にかけたいんだから。」と言いながらも、本音は「そんな先の見えない人と結婚させるわけにはいかない。」と言わんばかりでした。「いっそのこと、彼が夢をあきらめてくれれば…」とも思うようになりました。そんなことはよそに、彼はひたすら受験勉強にいそんでいました。

### ● 厳しい選択肢・・・

私は考えたすえ、自分の気持ちを打ち明けることにしました。彼は、私の言葉にとまどいを隠せない様子。悩み抜いた結果出した彼の決断は、夢と結婚、両方を手に入れることでした。彼は退職と同時に、結婚式の日取りを決め、医学部の受験にのぞみました。結果は不合格。彼は失意のまま、5ヶ月間の結婚セミナーに通い始めたのです。今思うと、随分無謀な行動で、セミナーの中でも「危ないカップル」に映っていたかもしれません。なにしろ結婚を決めた本人たちが、今後の生活について何も確信がもてていなかったのですから。二人でなら何とか乗り越えていけるだろうという勢いだけが

先行し、実際は現実の厳しさがわかっていない考えの甘い二人だったのです。結局彼は、何年かかるかわからない医学部の受験はあきらめ、同じ医療領域である保健士／看護師の資格取得のために大学3年に編入することにしました。会社を辞めてまでめざした夢を、大して努力する時間もあたえられないまま、結婚によってあきらめなくてはならなくなったのですから、彼にとってもつらい決断だったに違いありません。

### ● 結婚の理想と現実・・・

結婚生活はそれぞれが思い描いていたものとはほど遠いものでした。私は毎晩残業に追われ、ゆっくり夫婦で話す時間もなければ、食事さえ一緒にとることはほとんどありませんでした。会社では「だんなさん、フリーターなんだって? 大変だね。」と変な同情をされ、かえって惨めに思うことも…。体調も崩してしまい、入院、手術、長期療養。「どうして私ばかりこんなに大変なの?」と被害者意識におそわれることもしばしばありました。とにかく、彼によって自分の生活が縛られているとしか思えなくなっていました。「私には自分らしくいられる自由はないの?」とよく彼に訴えました。もちろん、彼もできる限り私の状況を理解しようと努力してくれているのはわかっていました。新たな目標に向かって進み始めた彼には、どんなに妻に責められても今は何も言い返せないし、どうすることもできない。結婚当初から随分お互いを傷つけ合っていました。

### ● 新たな歩み・・・

現在は、彼も大学を卒業し、社会人学生として大学院に通いながら、看護関係の仕事に就き、新たな人生を歩み始めました。私も、初めて味わう専業主婦の生活。とても新鮮に感じ、素直にその生活を楽しんでいます。また春には待望の新しい家族が増える予定です。私にとっては二度と戻りたくない4年間でしたが、どうすればお互いが少しでも気持ち良く結婚生活が送れるか喧喧諤諤やってきたおかげで、今はそれぞれが加害者でも被害者でもなくなり、以前よりいい関係が築けています。結婚式で誓った言葉が久しぶりに思い出されます。

### ● 私たちの誓いの言葉・・・

「私たちは今日、人生における最も尊い宝物を与えてくださった神様に感謝します。夫婦としてお互いの健康と成長に積極的に参加し、感謝とユーモアの心を大切に一日一日を歩んでゆきます。ありのままの自分でいられるようお互いを許しあい信頼と尊敬をもって生涯変わらぬ愛で支え合うことを誓います。」



慰められるよりは、慰めることを、  
理解されるよりは、理解することを、  
愛されるよりは、愛することを私が求めますように  
～アシジの聖フランシスコの「平和の祈り」より～

セミナーで唱えた「平和の祈り」を覚えていますか。夫婦、そして子供にとって不可欠な家庭の平和。これを静かな湖の水のように、穏やかにたたえておくのは難しいことです。どうしても波風が立ってしまいます。その波風の一つが、嫁姑の問題ではないでしょうか。シナリオにまとめたケースをもとに、この問題がもたらす夫婦の心への負担を少しでも軽くできないかと座談会で話し合ってみました。

● 嫁と姑 ●

【シナリオ】

— 今日のは姑の誕生日。妻は姑に贈る誕生日カードを用意している。  
姑：（朝電話で）今、知子さん（夫の弟の嫁）が見事なお花を届けてくれたのよ。今日は、武（夫の名）の好物の煮魚を作りますから、都合の良い時に取りに来てくださいな。  
妻：（朝早い電話に何事と驚きながら）まあ煮魚を？ありがとうございます。春子（次女）が風邪気味ですけどなるべく早く伺います。  
— 長女を幼稚園に送った後、次女を病院へ連れて行く途中で、バラの花束を買い、歩いてすぐの姑の家へ立ち寄った。夜は煮魚がいただけなので、おかずを作らなくて済むかと期待して…。  
姑：（上機嫌で）まあ、きれいな花をありがとう。誕生日を覚えてくれたのね。春子ちゃんどんな具合？この魚一人分だけ入れておきますね。あなたもいろいろ夕飯の用意をするだろうし、皆の口には合わないかもしれないから。  
妻：（ちょっと期待が外れて）あら…。ありがとうございます。武さんが喜ぶわ。  
— 一夜、夫が帰って来て。  
夫：お袋の所へ寄ったら、君がきれいな花を届けてくれたって喜んだよ。春子が風邪なのに、無理して来てくれなくても良かったのにな。  
妻：朝、お電話があったのよ。煮魚を作るから取りに来ていっておっしゃりながら、お誕生日の催促なのよ。  
— 夫、ちょっと不機嫌な顔をしながら夕食のテーブルにつく  
夫：あれ、皆は魚食べないの？  
妻：あなたの分だけくださったのよ。  
夫：食べたくないよ、こんなもの…。  
— 妻の作った献立が並ぶなか手のつけられていない一皿の煮魚…  
食卓に気まずい空気が流れる。

【座談会】

出席者： 太郎/花子夫妻 正夫/静子夫妻  
司会： いわゆる嫁姑の葛藤ということで、このシナリオを作りましたが、皆さんどう感じましたか？ひとつのケーススタディーとして考えてみてください。

●分かって欲しい・・・  
正夫：僕は、このお嫁さん、せっかく、姑の底意地の悪さにも耐えて、頑張ったのに、最後に夫に八つ当たりして残念だと思う。自分が損している。  
花子：でも私だったらやっぱり夫に嫌味を言いたくなる。だって夫があまりにも脳天気なんですもの。もう一人のお嫁さんを引き合いに出してお誕生日の催促、孫が風邪なのに、魚を取りに来させておいて、無理しなくてもなんて息子に言うところはちょっと偽善的。しかも遠慮ぶってお魚一人分しかくださらないし…。  
太郎：でも夫はそのいきさつを知らないんだよ。脳天気とも言えないんじゃないかな。  
静子：そうだけど、この妻は、姑の言葉に単純に喜ぶ夫の姿を見て切れたのよ。ところが、切れた妻に、夫はぶすつとしちゃう。このぶすつとが問題だと思う。ぶすつとしないで、どうして妻が切れたのか優しく聞いてあげたら良かったんじゃないかしら。  
正夫：そうか。どうしたのって聞くわけね。また僕のお袋の悪口が始まったなんて思わないで。  
花子：そうなの。妻としては、聞いて欲しい。お姑さんのお陰で心が穏やかじゃなかったけれど、それを我慢したことを分かって欲しいの。ただ、分かって欲しいだけなのよ。だってお姑さんの性格は



もう変えられないんだし、妻だって仲良くしたいと思っている。夫が分かってくれて、自分の味方だって自信がつけば、妻の心にもゆとりが生まれて、いちいちキリキリ反応しなくなる。そのうちお姑さんともいい距離が保てるようになるかも…。  
太郎：それならその通りに言ってくれば夫としても受け入れやすいんだけど、嫌味っぽくじゃなくて。  
静子：でも話すにしても、こういう時って、なかなか素直になれない。夫が果たして分かってくれるか、そんな風に考える自分がひねくられて見られるんじゃないかと。それでつい嫌味が出ちゃう。そして夫は気分を害するし、自分は自己嫌悪に陥って…。私にとって嫌なのは、お義母様と何かあると、自分の悪い性格が引きだされ、夫との間がぎくしゃくすることなの。どういうわけか、相手がお義母様だと振り回されちゃう。他の人の嫌味はうまくかわせるのに…。

●夫の存在・・・

正夫：つまり夫の存在だよ。それと、社会的に、嫁は姑に逆らえない、姑とうまくいく嫁は偉いみたいな既成概念があるからじゃないかな。それで妻に心の自由がなくなる。  
静子：そう、確かに上のお嫁さんはお姑さんに誕生日をそれとなく催促された時点で、心の自由を失って、全て悪く解釈している。このシナリオのお姑さんはずいぶん悪く描かれていて、ちょっとお気の毒だけど、いくら良いお姑さんにだって、上のお嫁さんみたいに感じることはある。  
花子：そうね。だから深みにはまってどろどろした関係にならないためにも、いつも夫には出番があると思って欲しい。それは、私のことを弁護して、お姑さんにとにかく言うんじゃないで、私の心の痛みをケアしてくれること。これが子供の教育に余計な口を挟むとかそう言うことならまた話しは別で、きちんと話して欲しいけど…。  
静子：私をぎゅっと抱きしめて、「そうか、いろいろ大変だったんだね、でもありがとう、お陰でお袋喜んでたよ」って言ってくれるだけだって、すごく嬉しいわ。（笑い）  
花子：あっ、それ気に入った。そうよ、私たち夫婦なんだから、遠慮なく抱きしめてちょうだい。（笑い）  
正夫：ハイハイ。（笑い）でもそういう時ってとてもそんな気分になれないね。  
花子：その時じゃなくなつて、少し後でだって受け付けます。（笑い）夫と妻の関係はその都度修復していきたいんだから。

●二人の問題として・・・

太郎：（ちょっと考え込んで）確かに、嫁姑の問題は、夫の存在によって起こるわけだから、夫婦がこの問題を「二人の問題」として捉えていくべきかも。そうすれば、姑に変化を期待しなくても、僕たち二人だけの努力で、解決の道は開ける可能性があるわけだから。そして夫も妻も既成概念にとらわれずに、自由な心を持つ。姑との軋轢も最初は無理に「お母さま」とか考えないで、ひとつの対人関係と思っていれば、意外とことは単純かもしれない。  
正夫：そうだね。そして今を大切に、僕たち二人の家庭を平和に保とうとしていけば、自然に義理の親たちとの間に、優しい関係ができてくるかもしれない。でもあくまでも僕たちが目指すのは、僕たち二人から始まる良い家庭を作ること、相手の親と仲良くすることが結婚の第一の目的じゃあないということ、常々二人で確認していれば、お互い無理をしなくて自然体でいられる。  
花子：そう言ってくると、とても嬉しい。  
静子：ほんと。



## ☆ 司祭からのメッセージ ☆ 子供たちと接して思うこと

池尻です  
みなさん今度一杯  
飲みましょう



子供を立派に育てるのは、大変で、大切な仕事です。日本の場合、育児というついでに母親の仕事と受け止められがちです。胎内に10カ月養い、出産し、お乳を与えるのは母親だけができることで、父親の出番はありません。だからといって、本当に父親の役割はないのでしょうか。

子供は、すでに胎児の時から、自分が必要とされているか、邪魔者とみなされているか分かっているといわれます。それは、夫婦の対話の中で生まれてくる子供への期待や喜びや、胎児への呼びかけ等によって伝わっていくのです。胎児の時ばかりでなく、乳幼児期においても必要なことです。言葉ばかりでなく、抱いてやる、背負ってやるなどのスキンシップによる、肌の温もりを通じての

交わりも大切です。

育児の大半の時間は、現実には母親一人の手にかかっています。そのとき母親の心が安定していなければ、子供を不安に陥れてしまいます。この母親の心配や困難を聞いてあげ、少しでも心穏やかに子供に接することができるように配慮してあげるのが、父親の大切な役割です。

実際の育児をになっっているわけではありませんが、教会学校の子供や母親に接して日頃感じていることです。

池尻廣幸



7号掲載の「シンプルライフ」の記事について、皆さんから反響を頂き、関心の高さが

One 編集局にも伝わってきました。そこで今回は実践的な内容について考えてみました。

### ☆ 不要な服を手放そう ☆

昨冬に続きこの冬も着なかった服は？ 2シーズン着なかった服は、よほどの理由がない限り手放しましょう。具体的には、きれいに洗った後、寄付したり（文末ご参照）、リサイクルショップ、バザーやフリーマーケットに出すなどの方法があります。今が冬物の整理をするチャンス！

### ☆ 手放すときのポイント ☆

- 「将来着るかもしれない」から「着ないかもしれない」に視点をかえる。
- 要らない服から自分を解放して、服の奴隷から服の主人になる。
- 残す服、手放す服の仕分け作業を自分のセンスや好みを知っている配偶者と一緒に行う。
- 手放そうかと迷った時に聞こえてくる声に耳を傾けよう。

◇ 形が古しいし、ちょっとくたびれているけど、まだ着られるー

「じゃあなぜ全然着ないの？」

◇ 買ったばかりだものー

「それならなぜしまい込んでいるの？」

◇ 高価だったからもったいないー

「誰の責任？ 判断を誤った結果をなぜ取っておくの？」

◇ 体型が合わなくなったー

「期限付きの【〇〇キロになったら着る箱】にいられたら？」

### ◇ 思い出があるー

「一体どれだけの思い出を保存すれば気が済むの？ 期限付きの『思い出の箱』を用意したら？」

### ☆ 服を買うなら慎重に ☆

新たに服を買う必要ができたなら、それがすぐに不用品とにならないように次の点をもとに選んでみましょう。シンプルライフを目指すには、できる限りモノを増やさず、つまり「モノを買わない」が基本ですから。

### ☆ 買うときのポイント ☆

- 流行と直接関係のないデザインである。
- 着るとリラックスする。軽く、動きやすく、着心地が良い。
- さまざまな時に着られる。組み合わせによってビジネスやフォーマルとカジュアルの両方に着られる服は、荷物を少なくしたい旅行時にも最適。
- 製造過程での環境への負担が最小限。
- 手入れが簡単で、シワや汚れ、キズが目立ちにくい。（つまり購入後も環境への負担が少ない。）

服の整理を機に「少なくして、満ち足りる」感覚をつかめれば、生活の簡素化も軌道に乗るでしょう。まずは楽しみながらやってみてください。

### 【参考】

#### ☆ 主要寄付先 ☆

#### ● あかつきの村 ●

〒379-2104 群馬県前橋市西大室町448-3

Tel: 027-285-4449

#### ● 山谷マックアルコールセンター ●

〒110-0012 台東区竜泉3-39-8

Tel: 03-3871-3505

(送付方法等、詳細は各団体にお問い合わせください)

#### ☆ One 編集局が推薦する

ー シンプルライフの本 ー

#### 『人生を複雑にしない100の方法』

イレイン・セント・ジェイムズ著

田辺希久子訳

ジャパンタイムズ刊 (1998.6)

ISBN : 4-7890-0924-6

## シンプルライフ - 服を整理する -

長野県の斑尾高原にてペンションを始めました！  
小松 律史・弥生

私たちは95年7月に聖イグナチオ教会にて挙式、その後、脱サラ。ホテルタングラムの厨房にて夫婦ともに料理の修行をし、昨年12月開業にこぎつけました。冬はスキー、夏はテニスに釣りにゴルフ等。いろいろ遊べます。是非お越しください！

〒389-1302 長野県上水内郡信濃町タングラム  
斑尾ウエストヒルズE-12  
ペンション「エル・フォレスト」  
Tel: 026-258-2821



# 神父様教えて!! 一粟本昭夫

「日常生活の中で、どうしても気が合わない人がいるのですが、その人を受け入れられない自分が、すごく小さく感じられて、自己嫌悪に陥ります。人を嫌いなのは悪いことでしょうか。教えてください!!」

聖書には「人を好きになりなさい」とは書いてありません。ただ、「互いに愛し合いなさい」(ヨハネ13:34)とは書いてあります。好き、嫌いということは、それ自体善悪ではないのです。人の感性の部分、食べ物と同じです。しょうがないことです。嫌いだから愛してないともいえないし、また、好きだから愛していることにもなりません。しかし、「愛」とか「愛する」と言う表現は、日本人にはなじんでいませんね。ですから、どうしても「愛」と「好き」を混同してしまうのです。

「愛」と「好き」を区別するために、愛とは関係性から生じる自分の義務を果たすこと自体も良いでしょう。夫婦が愛し合う、親が子を愛する、教師が生徒を愛する—まず関係があり、そしてその関係に準じて義務が生じます。それを理性(心)で判断して認め、行う。ですから愛は知らない人を含めて全ての人に対して持つことができます。

近所に嫌いな人がいるとします。顔を合わせたとき、「話したくないけれど、ご近所の方だし、無視するのは失礼だ。挨拶だけでもしよう。」それを愛といえます。好きでなくても、その人に誠意をもって接しているなら、それは愛です。嫌いでも気にすることはありません。

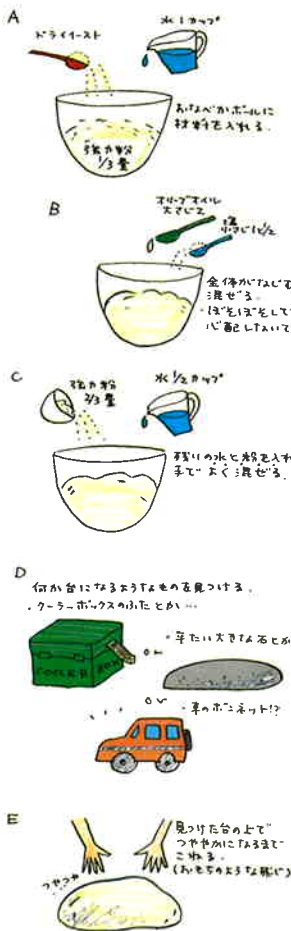


## あっこのみんなでクッキング

### キャンプでパンを焼いてみよう!!



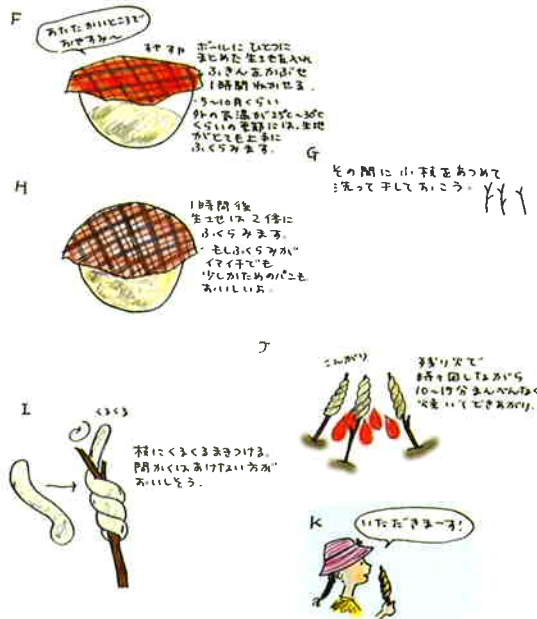
ドライイースト スーパーで売ってます



オーブンの代わりにバーベキューの残り火を使うところがおいしさ倍増。多少不出来でも、みんなで楽しみながら挑戦してみてね。

～ 材 料 ～

- 強力粉 500g ふるったもの
- ドライイースト 5～10g
- 砂 糖 大さじ1と1/2
- 塩 小さじ1と1/2
- 水 1と1/2カップ
- オリーブオイル 大さじ 2



## 復活のろうそく

皆さん覚えていますか? 結婚式の時祭壇に輝いていたろうそくを。キリストをお迎えする準備に私たちは、実際にあるいは心の中にろうそくをともします。ろうそくの光は、温かくて明るくて、何かほっとしますね。もうすぐ復活祭。そしてこの時にはまた特別太いろうそくが用意されます。ではこのろうそくにはどういう意味があるのでしょうか。

復活徹夜祭のミサの中でもされるろうそくは、この世を照らす光であるキリストの復活と勝利の象徴です。ろうそくの太い胴体には、その年の年号、十字架、そして十字架上のキリストの傷を表す5つの粒が十字架の4つの端と中央につけられます。また十字架の縦軸の上下に刻まれている、ギリシア語のアルファベットの最初の文字Αと最後の文字Ωは、聖書の黙示録(1:8)に「今あり、かつてあり、のちに來られる全能の神は、『私はΑであり、Ωである』と仰せられる。」とあるように、キリストは一切のものの始めであり、終わり(完成)であることを表しています。そしてこのろうそくは、復活節のミサ、新しい命の始まりである洗礼と、この世から旅立つお葬式の時にともされます。



### 一 編 集 後 記

Oneのロゴが変わりました。きっかけは、昨年末の編集局の忘年会での粟本昭夫神父様のご提案でした。夫婦の心がひとつとなっている象徴として、Oneの「o」の文字を結婚指輪が二つ重なるようなデザインにしたらどうか。一同大賛成で、早速新しいロゴの誕生となりました。

ロゴ、そして誌面の衣替えには<新しい出発>の意味もこめられています。本誌は1996年冬号の創刊以来、結婚クラスとセミナーの修了者のための、情報誌を目指してきましたが、これからはより積極的に「夫婦」に取り組み、皆さんとの心の交流の場にしたいと思っています。皆さんの思いをぜひe-mailやファクス、手紙でお知らせください。今後ともよろしくお願いいたします。(福富)

### 編集参加者 (五十音順)

- 新井 直子
- 内田 京子
- 城間 正人
- 鈴木 肇・庸子
- 武田 伸子
- 玉木 健太郎・泉
- 福富 達夫
- 満尾 佳子
- 森本 亜希子
- 柳谷 晃子
- 山本 浩

### 発行:

聖イグナチオ教会 One 編集局  
(担当:城間正人・鈴木庸子)

〒102-0083

東京都千代田区麹町6-5

Tel:03-3263-4584

Fax:03-3263-4585

URL: <http://www.ignatius.gr.jp>

e-mail: [one@ignatius.gr.jp](mailto:one@ignatius.gr.jp)

印刷: ㈱六甲出版

兵庫県神戸市灘区岩屋北町3-3-18



この冊子は再生紙を使用しています